

学術事業報告

学発番号：第13-057号

研修会 臨床化学免疫血清分野 研修会

日時： 2013年12月17日(火) 18:30～20:30

場所： 京都保健衛生専門学校 視聴覚室

主 題1： 「梅毒感染症および梅毒検査について」

講 師1： 中岡 啓一 氏（極東製薬株式会社）

主 題2： 「結核診断検査T-スポット検査の導入状況」

講 師2： 中尾 倫孝 氏（オックスフォード・イムノテック）

参加数： 総人数19人(正会員12人)

報告者： 後藤 直樹（京都保健衛生専門学校）

以下、講演内容など

今回の研修会では感染症検査の梅毒、結核について講演していただきました。講演1では梅毒の基礎知識、測定法などについて極東製薬株式会社の中岡啓一氏に講演していただきました。梅毒は毎年増減があるものの、やや増加傾向にあり、性別では男性優位となっている。極東製薬株式会社では、ラテックス凝集免疫比濁法を測定原理としたトレポネーマ抗体キットを販売されており、試薬性能についても説明いただきました。講演2では結核についてオックスフォード・イムノテック株式会社の中尾倫孝氏に講演していただきました。一般的な結核検査ではツベルクリン反応が知られているが、結核菌感染、類似の非結核性抗酸菌に感染、BCG接種の影響の区別がつかない欠点がある。その後、開発された血液を検体とするクオティフェロン、T-スポットが開発された。今回はT-スポットの現状について話をしていただきました。T-スポットでは検査に使用する末梢単核細胞(PBMC)の数を100万個となるように揃えてから検査を行い、患者背景の影響を軽減するようにも工夫されています。また、結核菌特異抗原としてESAT-6およびCFP10の2種を使用しているため、BCGや結核菌以外のほとんどの抗酸菌の影響をなくす特徴もあります。

梅毒、結核は毎年新たな感染者の報告があり、結核については毎年2万人以上の新規患者の報告もある。ともに、感度、特異度の高い検査がのぞまれる。